

た長野工藤氏一族の菩提寺で、当時この辺りを治めていた長野工藤氏の庶家、雲林院氏との関係が深かったといわれ、慶長年間（1596～1615年）ごろまでは存続していたようです。しかしその後廃絶したため、わずかな文書にその存在が記されるだけで、その創始や規模は、

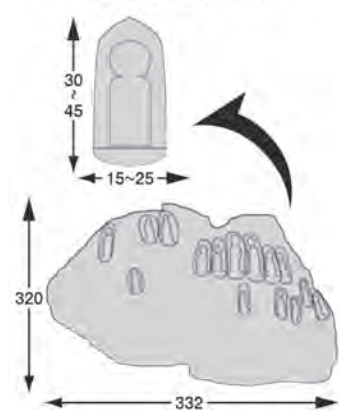


市芸濃庁舎付近から望む経ヶ峰と摺鉢山

経ヶ峰の北東に位置し、茶碗を逆さまにしたような山、それが摺鉢山です。この摺鉢山の麓の芸濃町雲林院から小野平にかけての山中には、熊岳山仙幢寺という大伽藍があつたと伝えられています。この寺は、室町時代から戦国時代にかけて、伊勢国司北畠氏と中勢地域で争つ

ほとんど分かっていません。この寺があつたと考えられている辺りに、その名残りといわれる石造物「千度坊の十五体地蔵」が残っています。小野平の集落の外れにある墓地から山道を進むと、「シヨウベン地蔵」と呼ばれる石の地蔵があり、さらにその先に千度坊の十五体地蔵の案内板が見えてきます。案内に従って進むと、右手の高台に15体の地蔵が彫られた大きな自然石が、ぼつんとその姿を現します。この地蔵は、いずれも薄肉彫りされた立像で、その周りには光背が彫りくぼめられ、長年の風化でその表情は分かりにくくなっています。足元には台座があり、手に錫杖を持つたり合掌したりした様子を見ることがができます。

寺の建物は、はるか昔に失われ、その姿を見ることはできませんが、この地蔵たちは今も同じ場所に残り、この地の歴史の移り変わりを見守り続けています。

千度坊の十五体地蔵の大きさ
(単位:センチメートル)

千度坊の十五体地蔵